

2021年 2月 24日

2020年度 公益財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団

## 調 査 ・ 研 究 報 告 書

調査・研究課題

沖縄・東北・東京における緩和ケアの地域差に関する研究

---

所 属 機 関 ・ 職 聖隷三方原病院 副院長

調査・研究代表者氏名 森田 達也 印

## I 事業の目的・方法

### (1) 目的

どのような医学的治療であっても文化的な側面に配慮して行うことが重要である。医師は複数の地域で診療する場合があります、たとえば首都圏で教育を受けたように診療を行っても地方ではかえって患者・家族に受け入れられにくくこともある。しかし、我が国の地域差に注目してがん診療のあり方を系統的に研究したものはない。本研究の目的は、沖縄・東北を例にとり、首都圏と対比させることによって、国内におけるがん診療のあり方の地域差とその背景を明らかにすることである。

### (2) 方法

横断調査(無記名の質問紙調査)である。以下の調査項目に関して回答を求めた。

対象として、がん診療を行っている医師 1100 名(沖縄 300 名、東北・首都圏 400 名)を対象とした。東北に関しては、文化的な同一性という観点から、東北6県のがん診療連携拠点病院 50 病院のうち青森、秋田、山形、岩手の4県の 25 病院を対象とした。首都圏に関しては、東京、神奈川、埼玉、千葉県のがん診療連携拠点病院 68 病院から、がん専門病院を除外し、さらに、大学病院のサンプリング比率が東北地域と同じになるように無作為に抽出し、38 病院を対象とした。沖縄については、100 床以上の内科診療を行っているすべての病院 25 病院を対象とした。調査時期は新型肺炎の流行の状況をみて行い、新型肺炎の治療の中核病院は除外した。

評価項目として、地域に特徴的ながん診療のあり方(「魂が残るので家で息を引き取りたい」など)、患者/医師関係での意思決定のあり方(「自分ひとりでどの治療を受けるか最終的な選択をする」~「治療の決定に関してすべて主治医に任せる」)、がん告知の現状とその影響、患者/家族関係での意思決定のあり方(患者に伝えずに家族に伝える)とその関連要因、アドバンスケアプランニングのあり方などを調査した(調査票を資料に添付)。

## II 事業の内容・実施経過

倫理審査を得たうえで、新型コロナウイルスの流行状況もみながら、おおむね計画通りに進捗できた。

## III 事業の成果

### (1) 回収状況

母集団の対象数 2694 名から大学病院、専門科を沖縄地域の全数調査に一致させたマッチングをランダム抽出で行った。発送数 1523 名のうち 42 例が宛先不明であり、553 名(沖縄 187 名、東北 219 名、首都圏 147 名)が回収された。回収率は、37.3%であった。

表1 発送・回収数

	沖縄	東北	首都圏
もとの対象母数	517	787	1390
大学病院	44	264	333
大学病院以外	473	523	1057
ランダム抽出後の対象数(発送数)	517	506	500
大学病院	44	44	44

大学病院以外	473	462	456
宛先不明の返送数	27	5	10
回収数	187	219	147

## (2)告知に関する内容

患者に最初に説明するべきであるか家族に最初に説明するべきであるかについてはどの地域においても80%以上で患者に説明するべきであるとしていたが、沖縄で「患者に最初にすべきである」とした医師が多かった(表2)。

しかし、実際に告知をしている患者の割合では、沖縄で東北、首都圏と比較して低く、非根治の高齢者の場合では東北地方でも低かった。医師の体験では、「告知しなくても察しているので問題ないようであった」「告知していないことで前向きに過ごせた」「患者ががんで分からないように家族みんなで協力する」ことが沖縄で多く見られた。

表2 がん治療・緩和ケアに関する地域差—告知に関する内容

	東北 N=219	沖縄 186	首都圏 145	P
全般的な態度				
患者に最初に説明するべき				
早期がん	180, 82%	183, 98%	135, 93%	<0.001
進行がん	146, 81%	162, 87%	119, 82%	<0.001
告知する比率(%)				
若い患者				
根治	99.2	98.0	99.6	0.05
非根治	95.2	93.1	97.5	0.05
高齢者				
根治	98.4	97.2	99.1	0.081
非根治	91.4	88.0	95.0	0.002
軽度の認知症のある高齢者				
根治	95.2	89.9	96.5	<0.001
非根治	81.5	83.4	78.4	<0.001
体験に関する項目(1-5)				
告知しなくても察しているので問題ないようであった	2.66 (0.83)	2.68 (0.83)	2.38 (0.89)	0.004
告知していないことで前向きに過ごせた	2.26 (0.81)	2.40 (0.88)	2.12 (0.84)	0.017
患者ががんで分からないように家族みんなで協力する	2.14 (0.66)	2.31 (0.74)	2.03 (0.71)	0.002

## (3)地域の文化に関する内容

地域による文化差を想定した質問において、全くない・めったにない vs. 時々ある・よくある・非常によくあるの2群で比較した結果を表3、図1に示す。

沖縄において、以下の5項目は他の2地域より有意に多かった。

- ・治療方針を決めるときに、患者が、まず家族の中で年長者または“家長”に相談する
- ・最期の瞬間に家族全員が立ち会うことが大切と考えられている
- ・「病院で死を迎えるとたましいが戻ってこられない」「生まれたところに帰る」ため、患者や家族が自宅で亡くなることを望む
- ・患者が亡くなりそうになると、自宅に戻って死亡確認を行う
- ・治療方針を決めるときに、地元の宗教家(ゆた、いたこ、霊媒師など)の助言を患者や家族が受ける

首都圏において、以下の2項目は他の2地域より有意に少なかった。

- ・高齢患者が自分の治療費を子供や孫の生活費や教育費にあてたいという理由で治療を希望しない
- ・病気を周囲にしられたくないので、がんであることを近所の人や親戚から隠す

東北において、以下の1項目は他の2地域より有意に多かった。

- ・特定の時期(冬、収穫の時期など)になると入院させておいてほしいと希望される

**表3 沖縄・東北・首都圏において、「時々ある・よくある・非常によくある」とされた割合**

	「時々ある」「よくある」「非常によくある」の頻度			P	群間差
	東北 N=219	首都圏 N=146	沖縄 N=184		
治療方針を決めるときに、患者が、まず家族の中で年長者または“家長”に相談する	117 53.7%	83 57.6%	121 66.1%	0.039	東 vs 沖 0.014
治療方針を決めるときに、地元の宗教家(ゆた、いたこ、霊媒師など)の助言を患者や家族が受ける	7 3.2%	4 2.8%	46 25.3%	<0.001	沖 vs 首 <0.001, 東 vs 沖 <0.001
高齢患者が自分の治療費を子供や孫の生活費や教育費にあてたいという理由で、治療を希望しない	55 25.2%	38 26.4%	28 15.3%	0.022	沖 vs 首 0.018 東 vs 沖 0.018
可能性が低くても「出来ることは全てすることが親孝行である」という考えが(患者の子どもたちに)ある	180 82.2%	124 85.5%	163 88.6%	0.196	
病気を周囲にしられたくないので、がんであることを近所の人や親戚から隠す	164 75.6%	89 62.2%	135 74.6%	0.013	沖 vs 首 0.021, 東 vs 首 0.009
最期の瞬間に家族全員が立ち会うことが大切と考えられている	184 84.8%	121 84.0%	175 95.6%	0.001	沖 vs 首 <0.001, 東 vs 沖 <0.001
「病院で死を迎えるとたましいが戻ってこられない」「生まれたところに帰る」ため、患者や家族が自宅で亡くなることを望む	46 21.1%	29 20.0%	61 33.3%	0.005	沖 vs 首 0.009, 東 vs 沖 0.007

患者が亡くなりそうになると、自宅に戻って死亡確認を行う	14 6.6%	19 13.2%	35 19%	0.001	東 vs 首 0.041, 東 vs 沖 <0.001
患者が亡くなった後に、それまで来ていなかった遠方の家族や親類が来て不信感やいかりをしめす	105 47.9%	65 44.5%	68 37.0%	0.081	
患者にがんであることを知らせないように、家族が協力して隠し通そうとする(薬局でもらう薬を患者に見せないなど)	59 27.2%	34 23.3%	64 34.8%	0.059	
特定の時期(冬、収穫の時期など)になると入院させておいてほしいと希望される	151 68.9%	43 29.5%	51 27.7%	<0.001	東 vs 首 <0.001, 東 vs 沖 <0.001

#### IV 今後の課題

本研究では、当初研究者たちが「世間話」として話していたような地域における患者・家族の立ち振る舞いの違いが数値でも実証された。すなわち、沖縄では全般に告知を望まない家族が多いが、家族全体で支えあい、薬局に他の家族が薬を取りに行くと患者にわからないようにするなどの努力をするが、告知しなくても患者自身がなんとなく察しているので問題なく、かえって告知していないことで前向きに過ごせたということもある。しかし、医師は、いわゆる近代医学教育のトレーニングを受けているために、患者の自己決定を守るためによりつよく患者に伝えるべきではないかという葛藤を感じやすいと思われる。

文化に関係したことでは、「意思決定のときに地元の宗教家にきくことがある」とはゆたとよばれる地元のいろいろな相談をうける宗教的なものの存在を示しており、「患者が亡くなりそうになると自宅で死亡確認を行う」とは台湾から沖縄にかけてみられる「亡くなった場所にたましいがとどまる」という考えに根差すものと考えられる。一方、東北では「特定の時期になると入院させておいてほしいと希望される」ことが多かったが、冬の積雪期の状況を反映していると考えられる。また、首都圏では、「高齢患者が自分の治療費を子供や孫の生活費や教育費にあてたいという理由で治療を希望しない」、「病気を周囲に知られたくないので、がんであることを近所の人や親戚から隠す」が少なかったが、いわゆる地方では、高齢者が家族のために治療を希望しなかったり、病気を隠すことが多いことが示唆される。

#### V 事業の成果等公表予定(学会、雑誌等)

本研究の結果は、共同研究者で分担して、日本緩和医療学会や日本臨床腫瘍学会などで発表する予定である。今後詳細な解析を通じて若手～中堅の緩和ケア・腫瘍内科ネットワークでの情報発信に努めていきたい。

資料 調査票

I もしあなたががんになった場合の病名や病状の説明について、うかがいます。

1 もし、あなたががんになった場合、患者のとしてのあなたのご希望を伺います。最もあてはまるもの1つを選択してください。

	全く 思わない 1	2	3	4 とても 思える 4
<b>早期がんの(手術をすれば根治する)場合</b>				
患者(自分)に最初に告知してほしい。家族にも告げるかは、その後、自分に決めさせてほしい	1	2	3	4
家族に最初に告知してほしい。患者(自分)に告知するかどうかは、家族に決めさせてほしい	1	2	3	4
家族が患者(自分)への告知を望んでいない場合であっても、自分に告知してほしい	1	2	3	4
<b>進行がんの(いずれの治療をしたとしても完全にはなおらない)場合</b>				
患者(自分)に最初に病状の説明をしてほしい。家族にも説明するかは、その後、自分に決めさせてほしい	1	2	3	4
家族に最初に説明してほしい。患者(自分)に説明するかどうかは、家族に決めさせてほしい	1	2	3	4
家族が患者(自分)への説明を望んでいない場合であっても、自分に説明してほしい	1	2	3	4

2 もし、あなたのご家族ががんになった場合、家族としてのあなたのご希望を伺います。最もあてはまるもの1つを選択してください。

	全く 思わない 1	2	3	4 とても 思える 4
<b>早期がんの(手術をすれば根治する)場合</b>				
患者に最初に告知してほしい。家族(自分)にも告げるかは、その後、自分に決めさせてほしい	1	2	3	4
家族(自分)に最初に告知してほしい。患者に告知するかどうかは、家族(自分)に決めさせてほしい	1	2	3	4
家族(自分)が患者への告知を望んでいない場合であっても、患者に告知してほしい	1	2	3	4
<b>進行がんの(いずれの治療をしたとしても完全にはなおらない)場合</b>				
患者に最初に病状の説明をしてほしい。家族(自分)にも説明するかは、その後、患者に決めさせてほしい	1	2	3	4
家族(自分)に最初に説明してほしい。患者に説明するかどうかは、家族(自分)に決めさせてほしい	1	2	3	4
家族(自分)が患者への説明を望んでいない場合であっても、患者に説明してほしい	1	2	3	4

Ⅱ もしあなたががんになった場合の治療の決め方について、あなたのご意見を伺います。

(1) 治療について、医師と、どのように決めたいとお考えですか？最も近いもの1つお選びください

①早期がん(手術をすれば治る)の場合

- 1 自分ひとりで、どの治療を受けるかについての最終的な選択をしたい
- 2 主治医の意見を十分に考慮したあとで、自分が、治療法最終的な選択をしたい
- 3 自分にとってどの治療が最善かを主治医と一緒に責任をもって決めたい
- 4 自分の意見を十分に考慮してもらったうえで、どの治療をおこなうかは最終的に主治医に決めてもらいたい
- 5 自分の治療の決定に関して、すべて主治医に任せたい

②進行がん(いずれの治療をしたとしても完全にはなおらない)場合

- 1 自分ひとりで、どの治療を受けるかについての最終的な選択をしたい
- 2 主治医の意見を十分に考慮したあとで、自分が、治療法最終的な選択をしたい
- 3 自分にとってどの治療が最善かを主治医と一緒に責任をもって決めたい
- 4 自分の意見を十分に考慮してもらったうえで、どの治療をおこなうかは最終的に主治医に決めてもらいたい
- 5 自分の治療の決定に関して、すべて主治医に任せたい

(2) 治療について、家族と、どのように決めたいとお考えですか？最も近いもの1つお選びください

①早期がん(手術をすれば治る)の場合

- 1 自分ひとりで、どの治療を受けるかについての最終的な選択をしたい
- 2 家族の意見を十分に考慮したあとで、自分が、治療法最終的な選択をしたい
- 3 自分にとってどの治療が最善かを家族と一緒に責任をもって決めたい
- 4 自分の意見を十分に考慮してもらったうえで、どの治療をおこなうかは最終的に家族に決めてもらいたい
- 5 自分の治療の決定に関して、すべて家族に任せたい

②進行がん(いずれの治療をしたとしても完全にはなおらない)場合

- 1 自分ひとりで、どの治療を受けるかについての最終的な選択をしたい
- 2 家族の意見を十分に考慮したあとで、自分が、治療法最終的な選択をしたい
- 3 自分にとってどの治療が最善かを家族と一緒に責任をもって決めたい
- 4 自分の意見を十分に考慮してもらったうえで、どの治療をおこなうかは最終的に家族に決めてもらいたい
- 5 自分の治療の決定に関して、すべて家族に任せたい

Ⅲ もし深刻ないのちにかかわるような病気になって万が一の時に、どのような医療やケアを望むかをどのように話し合っていきたいかについて聞きます。いわゆる延命治療(心肺蘇生、人工呼吸など)を受けるか、通院が難しくなったときに病院に入院・自宅での療養を希望するか、などについて、あなたのお考えをお伺いします。

1 上記のような内容について、これまでにご自身でお考えになったことはありますか

1 全くない                      2 あまりない                      3 少しある                      4 よくある

2 上記のような内容について、ご家族や友人とお話しになったことはありますか

1 全く話していない              2 あまり話していない              3 少し話している              4 よく話している

3. 上記のような内容について、主治医とお話しになったことはありますか

1 全く話していない    2 あまり話していない    3 少し話している              4 よく話している  
5 主治医はいない

4 上記のような内容について、ご自身の意向を残した書面はありますか

1 すでに書いてある    2 これから書く予定    3 いつか書こうと思う    4 書く予定はない

(分岐質問) 4の質問で、1, 2, 3を選んだ人

書面に残そうと思ったきっかけとして、当てはまるものすべてお選びください

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 家族や友人が重い病気や事故に遭ったから      | 2 家族や友人にすすめられたから         |
| 3 自分が重い病気や事故に遭ったから         | 4 自分の希望を伝えたいから           |
| 5 家族に迷惑をかけたくないから           | 6 医療者にすすめられたから           |
| 7 テレビやラジオで知ったから            | 8 本を読んだから                |
| 9 インターネットで知ったから            | 10 終活についての講演会や集まりに参加したから |
| 11 コロナ感染症の流行で死を考えるようになったから |                          |

5 もしもあなたの病状などにより、自分の考えや気持ちを伝えられなくなった時に備えて、家族の中で年長者(親や 家長など)に相談したいと思いませんか。

1 よく思う                      2 少し思う                      3 あまり思わない                      4 全く思わない

6 もしもあなたの病状などにより、自分の考えや気持ちを伝えられなくなった時に備えて、宗教家や地元の霊媒師などに相談したいと思いませんか。当てはまるものすべてお選びください

- |                            |
|----------------------------|
| 1 宗教家に相談したいとは思わない          |
| 2 牧師・神父などキリスト教の宗教家         |
| 3 仏教の宗教家                   |
| 4 神道の宗教家                   |
| 5 創価学会、天理教などの新宗教の宗教家       |
| 6 ユタ、いたこなどの地元の霊媒師          |
| 7 宗教家ではないが、仏壇の前等でご先祖様に相談する |

7 以下の質問は、あなたの病状などにより、自分で自分のことが決められなくなったとき、あなたに代わって意思決定する人(代理決定者、いわゆる医療代理人)についてお伺いします。

① 医療代理人を決めていますか。

1 すでに決めている	2 これから決めようと思う	3 決めていない	4 決める必要はない
------------	---------------	----------	------------

② 医療代理人として、家族や親族にお願いしたいと思いませんか。

1 よく思う	2 少し思う	3 あまり思わない	4 全く思わない
--------	--------	-----------	----------

③ 医療代理人として、法律の専門家(弁護士・行政書士など)にお願いしたいと思いませんか。

1 よく思う	2 少し思う	3 あまり思わない	4 全く思わない
--------	--------	-----------	----------

(分岐質問) 7③の質問で1~2(少し思う、よく思う)を選んだひと

法律の専門家(弁護士・行政書士など)にお願いしたい理由はなんですか。あてはまるもの全てお選び下さい。

1 煩わしい家族との問題にかかわらなくてすむから
2 安心感があるから
3 家族に迷惑をかけたくないから
4 頼れる家族がないから
5 頼れる友人・知人がいないから
6 その他

7③で3~4(全く思わない、あまり思わない)を選んだ人

法律の専門家(弁護士・行政書士など)にお願いしたくない理由はなんですか。あてはまるもの全てお選び下さい。

1 他人だから
2 事務的でさみしい感じがするから
3 お金がかかるから
4 頼れる家族がいるから
5 頼れる知人・友人がいるから
6 その他

IV もしあなたが、根治できない(治癒できない)進行がんになったとして、病名や病状を伝えられなかったとしたらどう思うかについて伺います。以下のように考えると思われませんか？最もあてはまるもの1つを選択してください。

	全くそう思わない	あまりそう思わない	少しそう思う	そう思う	とてもそう思う
<b>もし、病名(がんであること)を伝えられなかった、なら</b>					
がんと教えてほしいと思う	1	2	3	4	5
抗がん治療が受けられないなら、がんと教えてほしいと思う	1	2	3	4	5
家族が病気について率直に話せず困る時には、がんと教えてほしいと思う	1	2	3	4	5
介護保険が使えず費用負担が増える時には、がんと教えてほしいと思う	1	2	3	4	5
家族や友人にさいごの言葉を伝える機会や身辺整理の機会があったなら、がんと教えてほしいと思う	1	2	3	4	5
<b>もし、病状(治癒できないこと)を伝えられなかった、なら</b>					
病状(治癒できないこと)を教えてほしいと思う					
効果のない抗がん治療をやめたほうが良い時には、病状を教えてほしいと思う	1	2	3	4	5
家族が病気について率直に話せず困る時には、病状を教えてほしいと思う	1	2	3	4	5
ホスピス・緩和ケア病棟を利用できない時には、病状を教えてほしいと思う	1	2	3	4	5
家族や友人にさいごの言葉を伝える機会や身辺整理の機会があったなら、病状を教えてほしいと思う	1	2	3	4	5

V 医師と治療方針を相談することについてのあなたのお考えをうかがいます。以下のそれぞれについて、最もあてはまるもの1つを選択してください。

	全くそう思わない	あまりそう思わない	少しそう思う	そう思う	とてもそう思う
<b>医師との接し方について</b>					
自分の発言が医師の気分を害する	1	2	3	4	5
自分の発言は医師に聞いてもらえない	1	2	3	4	5
医師と馴れ馴れしくしてはいけない	1	2	3	4	5
医師との話し合いは、自分から発言できる雰囲気ではない	1	2	3	4	5
医師に伝えたいことを上手く言葉にできない	1	2	3	4	5
<b>治療の決め方について</b>					
物事を決めるのにとっても時間がかかる	1	2	3	4	5
決断を先送りにしようとする	1	2	3	4	5
自分の決断が医師と異なると不安だ	1	2	3	4	5
自分で治療の選択をして悪い結果になったら後悔する	1	2	3	4	5
<b>将来に病状の悪化したときのことを話し合うことについて</b>					
医師は、今後患者の病状の悪化が予測される場合、病状が悪くなった時にどのような治療を行うのかをあらかじめ話し合っておくべきである	1	2	3	4	5
患者と終末期についての話し合いをあらかじめするのは、医師の重要な役割の一つである	1	2	3	4	5
医師は、積極的に、病状が悪くなった時にどのような治療を行うのかをあらかじめ話し合っておくべきだ	1	2	3	4	5

VI あなたのもの考え方などに関する質問をします(これまでにいただいた回答との関連性を見るのが目的です)。以下のそれぞれについて、最もあてはまるもの1つを選択してください。

	全くそう思わない	あまりそう思わない	少しそう思う	そう思う	とてもそう思う
<b>縁起でもないと考えること</b>					
ことばにすると現実のものになるので、よくないことはことばにしないほうがよい	1	2	3	4	5
縁起でもないなので、悪いことを連想させる話にはためらいがある	1	2	3	4	5
<b>家族のことを優先して考えること</b>					

自分のことより、家族の幸せを優先して考えたい	1	2	3	4	5
自分自身の幸福より、家族(特に子や孫)の幸福の方が優先される	1	2	3	4	5
高齢者は、より若いものや子供のためにお金を使ったほうがよい	1	2	3	4	5
<b>いざというときには誰かが・家族が助けてくれるという考え</b>					
備えていなくても、いざとなったら誰かが助けてくれる	1	2	3	4	5
備えていなくても、いざとなったら家族や親戚が助けてくれる	1	2	3	4	5
何か悪いことが起こった時でも頼れる家族や親戚がいるので安心だ	1	2	3	4	5
<b>自分におこりうることはあらかじめ知っておきたい気持ち</b>					
自分に起こりうる悪いことはあらかじめ知って、備えておきたい	1	2	3	4	5
自分に起こりうる悪いことは起きてから考えればよい	1	2	3	4	5
自分に起こりうる悪いことはその時まで知りたくない	1	2	3	4	5
<b>噂に関する考え</b>					
噂はすぐに広まると感じる	1	2	3	4	5
自分の病気について、周囲にはできるだけ知られたくない	1	2	3	4	5
<b>医師との関係について</b>					
医師には常に敬意を払わなければならない	1	2	3	4	5
医師には、たとえ正しくないと思っても従わなければならない	1	2	3	4	5
医師の言うことは絶対だ	1	2	3	4	5
治療やケアを拒否してはいけない	1	2	3	4	5
<b>医師との話のしかたについて</b>					
患者は、医師と、治療に関すること以外は話さないほうがよい	1	2	3	4	5
患者は、医師に自分の個人的なことで時間を使わせないほうがよい	1	2	3	4	5
医師にはなるべく自分から話しかけないようにしたほうがよい	1	2	3	4	5
自分の立場を考えて、医師に話すことを差し控えたほうがよい	1	2	3	4	5
<b>健康に関する考え</b>					
病気がどのくらいで良くなるかは、医者腕の腕しだいである	1	2	3	4	5
病気がどのくらいで良くなるかは、医師のちからによる	1	2	3	4	5
健康でいられるのは、医学の進歩のおかげである	1	2	3	4	5
具合が悪くなっても、医者さえいれば大丈夫だ	1	2	3	4	5
病気がどのくらいで良くなるかは、医者の判断による	1	2	3	4	5

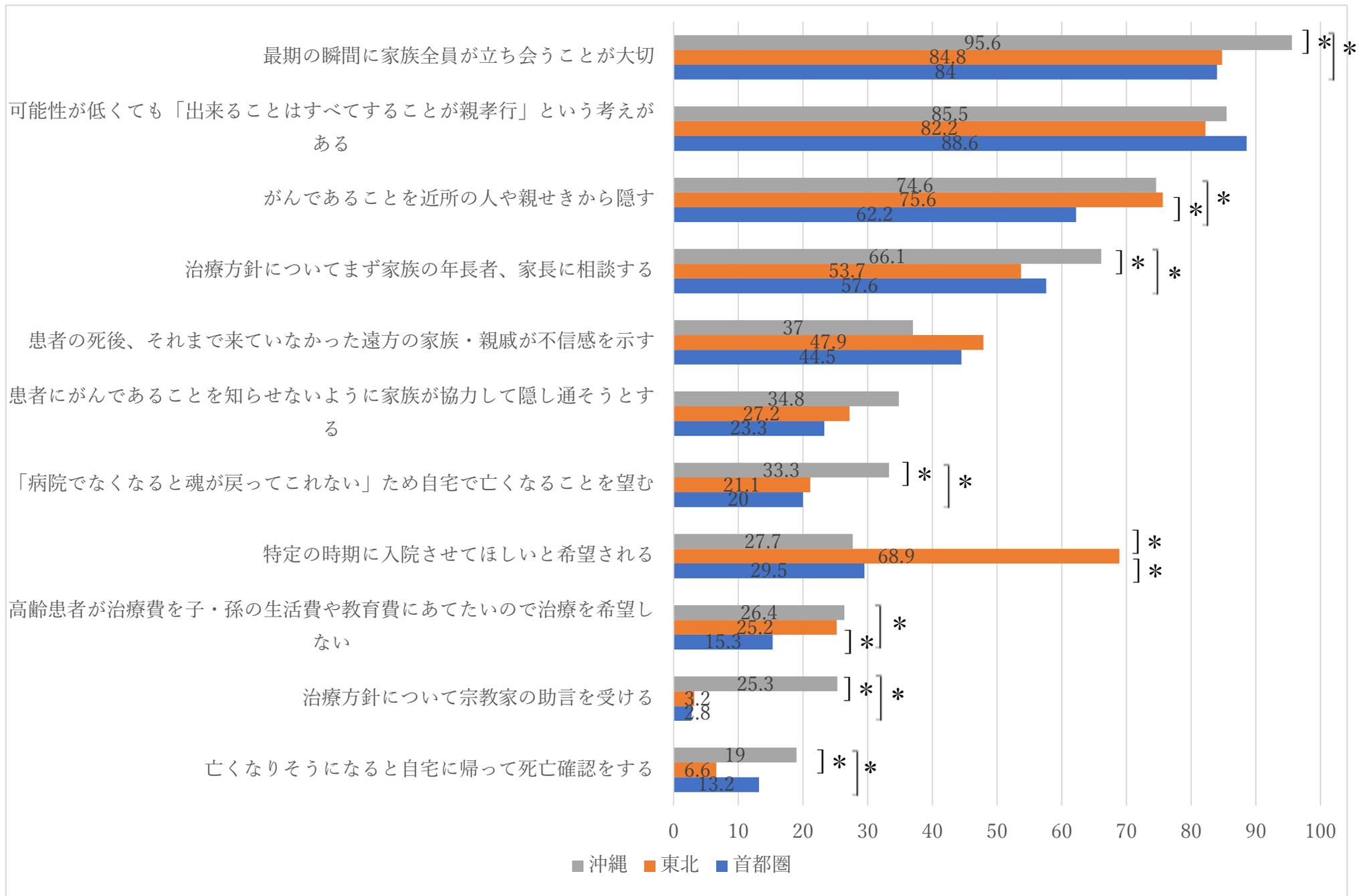


図1 沖縄・東北・首都圏において、「時々ある・よくある・非常によくある」とされた割合